
遠境カメラ

生美

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遠境カメラ

【Nコード】

N77110

【作者名】

生美

【あらすじ】

友人の話。もやっとなりました。

僕の友人に少々変わった男がいる。

見た目はごく普通で、何となく涼しい目元をしている。いつも穏やかに微笑んでいるような、そんな印象の青年である。

彼が変わっているのは、かつて自分は南国で写真を撮っていた、と固く信じていることだった。

彼は年若く、僕と同じようなごく普通の一般的な家庭に生まれ育ち、おまけに南国へはおろか海外にさえ行ったことがない。

けれども確かに記憶があるという。

実際には体験していないはずなのに、古い8ミリフィルムで映しだされたかのようなシーンが、瞼の裏に残っているそうである。

今まで幾人かには話したことがあったそうだが、皆、適当に聞き流すだけで、真面目に取り合いもしなかった。

僕も、何度かその話を聞いたのだが、余りにもとりとめがないので、どう反応したらよいのか判らない。

多分彼の作り話なのだろうけれど、これから僕はその話をしようと思う。このもやもや感を、誰かに少しだけ理解してもらいたい。

。

彼はジャングルの中にいたそうだ。鬱蒼とした森には、椰子の様な木々が生えていて、幾本もの蔦が絡みついている。足元には草が茂り、その固い葉に大粒の滴を湛えている。

彼は小さなカメラを携えていて、道中はずっと首から下げていた。薄暗い森の中を長い間彷徨い続けて、どこまで進んできたのか最早見当がつかなかった。

途中、スコールにあつてしまい、衣服は濡れて重くなり、肌にじりと張り付いている。

彼の頭の中では、レンズ越しの情景が思い起されていた。
色鮮やかな風景と、様々な表情を浮かべた沢山の人だった。

そうしているうちに、彼は広くひらけた場所に出た。

枝葉に覆われた空から、やわらかな木漏れ日が射ってきていて、赤茶けた地面に積み重なった枯れ葉の上で、光が淡く揺らいでいた。
雨が上がったばかりだったので、いつもは暴力的に照りつけるだけの太陽が、やさしくほのかに辺りを包み込んでいる。

天井の木々の葉の一枚一枚が、上空の大気の流れに乗って、自然に振れていた。

ただ其々が勝手にそよいでいるだけなのに、まるでひとつの葉の揺れが、他の揺れへと刺激を与え、互いに共鳴しあって、大きな一つの正弦の波になっているかのようにだった。

彼は移ろう光景を藪の中からばんやりと眺めていた。

天然の天蓋のようなその場所の真中には、朽ちかけた長靴が片方だけ落ちている。

それを拾おうと、茂みから抜けだして、ぬかるんだ地面に埋まった足を転ばぬように引きながら、中央へと進んでいった。ゆっくり一歩一歩前へと踏み出す足のはこびが、疲労と服の濡れによって思うようにいかない。

彼はカメラを構えると、中央の長靴へと照準を合わせて、シャッターを切っていたという。

ようやく真中へと辿り着くと、そこで天を仰ぎ見た。

数珠状に連なった光の礫がきらきらと輝いていた。

。

彼の話はこれで終わりである。

この話を最初に聞いた時は、僕は思わず「それだけ？」と彼に確認した。

「それだけだよ。」と彼は平然と答えた。

僕はその起承転結の伴わない物語のせいで、中途半端に投げ出された気分になった。

「なんだかよく判らない話だな。」

「うん。」

そこでもうお互い口を開かなくなり、会話は途切れたのだった。

○

初夏のある夜、僕は彼と一緒に酒を飲もうと誘われた。

待ち合わせ場所に到着すると、彼は缶ビールの入ったコンビニ袋をぶら下げて立っている。

「外で飲む気なのか？」と聞くと、「そうだよ。」と答え、「今日は月も出ていて、なかなかいいだろう。」と続けた。

確かにその晩は満月で明るく、湿った夜風が心地よかった。僕らは二人して近所の公園に酒を持ちこんで、ちびちびと飲み、たわいなし話をした。

（後書き）

最後までお読みいただき、ありがとうございました。
講評・感想など頂けると幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n77110/>

遠境カメラ

2010年11月7日21時33分発行